



▲南三陸町観光協会の阿部さん。震災体験談を話してくれました

でも五感を刺激された「いつか実際に南三陸町に行ってみよう」などの感想が寄せられました。今後「オラッ

市では、コロナ禍における新たな観光の取り組みとして、事業者によるオンラインツアーの企画を支援し、ホームページ「オラッ東北！」で紹介しています。このツアーは、自宅にいながら、東北の豊かな自然や食などの多彩な魅力を感じることができます。9月23日に南三陸町を舞台として開催された第1弾のツアーには、31人が参加。南三陸町震災復興祈念公園から語り部の方が復興の歩みを伝えたほか、山林と中継をつなぎ、南三陸の雄大な自然を生かした林業の取り組みなどが紹介されました。また、ワークショップとして、職人の説明を聞きながら、事前に自宅に届けられた南三陸杉の木材を使用したオリジナルの箸置き作りも楽しみました。参加者からは「杉の香りを感じることができ、オンラインでも五感を刺激された」「いつか実際に南三陸町に行ってみよう」などの感想が寄せられました。今後「オラッ

市政トピックス

東北の多彩な魅力を自宅でも楽しもう！オラッ東北！



▲張本選手は、「次は金メダルを獲得できるように、さらに練習を重ねていきます」と3年後のパリオリンピックに向けた熱い思いを話しました

市政トピックス

オリンピック・パラリンピックのメダリストに「賛辞の楯」を贈呈

日本中にたくさんの方の感動をもたらしてくれた東京2020オリンピック・パラリンピック。オリンピックでは、田中将大選手・浅村栄斗選手が野球で金メダルを、張本智和選手が卓球男子団体で銅メダルを見事獲得。また、パラリンピックでは、豊島英選手、藤本伶央選手が車いすバスケットボール男子で銀メダル、鈴木亜弥子選手がバドミントン女子のシングルスで銀メダル、ダブルスで銅メダルをつかみ取るなど、仙台ゆかりの選手たちが大活躍しました。市では6人のメダリストの功績をたた

え、「賛辞の楯」を各選手へ贈呈することを決定しました。10月4日には市役所で張本智和選手への贈呈式を開催。郡市長は、「張本選手が見せてくれた渾身のプレーと、仲間を信じてラリーをつなげる姿に勇気と感動をいただきました。市民にとって大きな喜びであり、誇りです」と活躍をたたえ、張本選手も「仙台にメダルを持ち帰れて嬉しい。市民の皆さんの応援が力になりました」とあふれる笑顔で語りました。また、当日は赤間市議会議長からも「仙台市議会議長特別表彰」が行われました。

市では、今後も順次、メダリストの皆さんへの「賛辞の楯」の贈呈を行ってまいります。

市政トピックス

スキルや専門性を生かして地域課題の解決をサポート

多様な主体の協働によるまちづくりを進めていくため、市では、専門的な知識や経験を生かして社会貢献を行うボランティア「プロボノ」と地域住民が協力して、地

域課題の解決に取り組む「地域課題解決プロボノ活用事業」を9月に開始しました。参加するのはIT企業の社員やコピーライターなどさまざまな職歴を持つ11人のプロボノ。仕事で培った能力を生かし、来年1月まで若林区遠見塚地区と泉区住吉台地区で活動します。9月14日に開催された遠見塚地区の第1回ミーティングでは、地域で開催している「遠見塚香香体操サロン」の参加者が減少し、活動が停滞している状況が説明されました。サロン活動の活性化に向けて、住民とプロボノが活動内容の見直しや新規参加者の獲得などについて意見交換を実施。今後、子育て世代の参加を新たに促すための効果的なPRを検討していくことなどを確認しました。

市政トピックス

空から迅速に市民の命を守る―山岳救助訓練

10月7日・8日の2日間、青葉区下愛子の蕃山周辺で消防ドロー

ンの活用と消防ヘリコプターとの連携による山岳救助訓練が行われました。この訓練は、例年、秋に山中での転倒や滑落による救助要請が多発していることから、山岳地の過酷な状況下における救助技術の向上を目指したものです。当日は、登山者1人が転倒して足をけがしたという想定で訓練を実施。救助要請の電話を受け、麓から消防ドローンを飛ばし、上空から捜索を行いました。数分後には、ドローンの映像や携帯電話の位置情報などから救助要請者を発見。直ちにドローンが特定した場所に消防隊が救助に向かいました。その後、消防ヘリコプターも到着し、上空から救助要請者を吊り上げて救出しました。本番さながらの緊迫感の中、隊員たちは真剣なまなざしで訓練に臨んでいました。市消防局では、より迅速で確実な山岳救助に向け、今後も定期的な訓練を実施してまいります。



市政トピックス

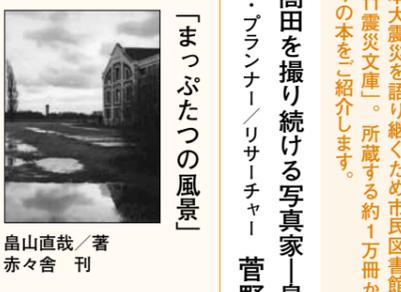
地域の防犯活動に貢献された方を表彰

市では、10月15日に行われた全国地域安全運動第33回仙台市大会で、7団体・98人の方々に表彰しました。このうち、防犯功労団体防犯功労者、退任感謝状を贈呈した方は、次のとおりです(順不同・敬称略)。

- 〔防犯功労団体〕本槽丁光楯会、東中田防犯指導隊、上杉地区防犯協会、桜ヶ丘地区防犯協会、岩切今市防犯協会指導隊、榴岡防犯協会、本田町町内会
- 〔防犯功労者〕藤原直、江刺克郎、新木源太郎、吉田邦子、高島新、金丸毅、玉川公、富内つや子、降旗武、高橋厚子、中島武夫、赤間正明、熊谷博明
- 〔防犯指導隊員・防犯女性部員退任〕遠藤節夫、庄司栄一、鈴木運一、山口博之、赤井畑弘盛、佐藤忍之助、村主日幸男、西山かつ子、千田さかえ、大槻恵子



畠山直哉／著 河出書房新社 刊



畠山直哉／著 赤々舎 刊

「陸前高田2011-2014」

「まっぶたつの風景」

畠山直哉は、石灰石鉱山やボタ山、暗渠といった日頃見過ごされがちな風景を、研ぎ澄まされた透明感と色彩でその風景の本質的な美しさを浮かび上げさせる作品を発表しています。畠山は陸前高田市出身で、3月11日、東日本大震災当日に誕生日を迎えた母を津波で失いました。以来、現在の拠点である東京から故郷に通い続け、陸前高田の変わりゆく風景を撮り続けています。畠山直哉は、「まっぶたつの風景」は、2016年にせんだいいメディアテークで開催された「陸前高田2011-2014」は、そのタイトルどおり、2011年3月から2014年12月までの間に撮影した故郷の風景IIバイオグラフィカル・ランドスケープを記録した写真集で、もう1冊の「まっぶたつの風景」は、2016年にせんだいいメディアテークで開催された「陸前高田2011-2014」は、そのタイトルどおり、2011年3月から2014年12月までの間に撮影した故郷の風景IIバイオグラフィカル・ランドスケープを記録した写真集で、もう1冊の「まっぶたつの風景」は、2016年にせんだいいメディアテークで開催された

紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585